

第 20 回 地層処分研究開発・評価委員会 議事録（案）

【日時】 平成 26 年 9 月 5 日（金） 13:30～17:00

【場所】 航空会館（東京都港区）

【出席者】

委員）小島委員長、大西委員、高橋委員、朽山委員、中村委員、西垣委員、藤原委員
（欠席：藤川委員、八木委員）

機構）地層処分研究開発推進部：宮本部長、山口次長、内藤課長、仙波課長、牧野課長代理、
小田副主幹 他

基盤技術研究開発部：塩月部長、亀井次長、柴田 SL、北村副主幹 他

東濃地科学センター：小出部長、大澤次長、浅森副主幹

幌延深地層研究センター：伊藤部長、藤田 GL

事業計画統括部：能登屋副主幹

経営企画部評価室：寺岡室長、川上副主幹

【配布資料】

資料 20-1 第 19 回地層処分研究開発・評価委員会議事録（案）

資料 20-2-1 「地層処分技術に関する研究開発」に係る「中間評価」の暫定評価に基づく
見解について（案）

資料 20-2-2 「中間評価」の評価項目と評価の視点について

資料 20-3 CoolRepH26 の進捗状況について

【議事概要】

1. 前回議事録の確認について

前回（第19回評価委員会）議事録（資料20-1）が承認された。

2. 「地層処分技術に関する研究開発」に係る「中間評価」の暫定評価とその結果に基づく見解について

資料20-2-1及び資料20-2-2に基づき、「地層処分技術に関する研究開発」に係る「中間評価」の暫定評価とその結果に基づく見解（案）についての確認を行い大筋了解された。委員からの主な意見は以下のとおりであり、後日各委員からメールにて頂くご意見等も踏まえて、それらを反映した修正については、委員長に一任されることとなった。

○「1. 研究開発の目的・意義」について

- ・ 中間評価を行う背景や流れをもう少し明示されるとよい。
- ・ 波及効果への言及は「4. その他 ①副次的な効果に関する評価」に記載する。・人材育成については、成果がどう使われるのかが理解されるように専門的な立場の人が説明できるような、コミュニケーション技術やそのトレーニングが重要。これからやるべきこととして、「3. 研究開発実施体制 ⑤情報発信、国民との相互理解の促進」などに記載する。

○「2. 研究開発の目標・計画と成果」について

- ・ 「③ 成果の達成度、反映先に対する十分性」の記載は、「意思決定ポイント等に合わせて構造化」の部分がわかりにくいため、表現を見直す。また、論文等の数に関する言及では、他部門との比較、他機関との比較などの情報をうまく盛り込んでいく。
- ・ 「④ 人材養成・知的基盤整備」の記載は、機構としての努力への期待だけでなく、国への働きかけについても言及する。

○「3. 研究開発実施体制」について

- ・ 「②研究開発の手段やアプローチの妥当性」の記載は、「科学的な視点での研究開発が沈滞化」は、科学的視点ではなく機構独自の視点の方が適切と考えられる。

その他

- ・ 資料20-3のCoolRepH26の進捗状況については、今回は資料の配付のみとし、次回（第21回評価委員会）に詳細を紹介する。
- ・ 次回（第21回評価委員会）の開催日時等は、別途調整を行い決定する。

以上